

つくば日中協会ニュース

(筑波日中協会会報) 創刊号

Vol. 1/No.1(1994. 3)

発行:つくば日中協会

1. つくば日中協会会長としての希望

つくば日中協会会長 不破正宏

昨年の夏頃から、つくば日中協会の結成のために、発起人の稲葉勝行つくば市助役と大庭治夫図書館情報大学教授のご両名とご相談を続け、つくば日中協会の発会式の開催の準備を進めて参りました。発会式には、大変お忙しいところを、私達の予想を越えて、多くの有志の方々にご参集を頂き、ここに、つくば日中協会が発足できたことを、発起人一同、皆様と共に、喜び合いたいとおもいます。

中国駐日大使館の張慧春参事官には、わざわざ東京からお出頂き、当協会の発会式のためにご講演を頂く光栄にも浴し、参会者一同と共に、心より御礼を申し上げます。今後とも、私達の活動を温かく守り育てて下さるようお願い致します。

また、木村操つくば市長には、市議会開会中というお忙しい時期にも関わらず、駆けつけて頂き、さらに、本会の名誉会長をお引き受け頂きまして、本当に有り難うございました。今後のつくば日中協会の発展のために、これほど心強い事は有りません。これからも、力強いご支援を頂くようお願い申し上げます。

また、茨城県日中友好協会を代表して、種田六郎副会長が水戸市から応援にきて下さり、長い日中友好の歴史を築き上げてこられた先輩として、私達を励まして頂き、本当に有り難うございました。

これからのアジア太平洋の時代の到来と我がつくば市の国際科学都市としての発展を思う時、つくば日中協会の活動により、つくば研究学園都市を中心にした日本と中国の交流が益々促進され、日本の友人と中国の友人の間の友情のパイプが一層太く長く発展する事を心より希望致します。つくば日中協会が市民レベルでの日中関係の発展に貢献できる事を願い、日中両国民間の友情の増進と実質的な交流の発展のために、着実な努力を続けておられる有為の皆様方がつくば日中協会の活動に積極的に参加、協力して下さいよう、お願い申し上げます。

2. つくば日中協会結成を祝して

名誉顧問 張 慧春(中国大使館参事官)

つくば日中協会の発会式にお招き頂きまして、誠に嬉しく存じると同時に、心よりおめでとうと申し上げ、この場をお借りしまして、不破会長、大庭幹事長、及び長い間中日友好のために続けて多彩なご尽力をなさってこられた方々にも敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

中日両国間の友好関係は、すべて両国民で育て上げられて、民間から政府間へと発展してきたものでございます。1992年、両国間 国交回復二十周年の天皇・皇后両陛下の中国ご訪問に伴い、高揚期を迎え、平穩段階に発展してきたわけでございます。

この成果は、大事にされなければならないと思います。中日両国友好条約締結十五周年の1993年に、つくば日中協会が設立されたことは、もっと意義ある事だと存じます。新しい中日関係の上に立って、友好運動を進め、それぞれの歳月の節目を迎えて、中日両国は 中日平和友好史上最高の日々であったことを喜び合いましたが、友好確立までの苦難な時代に、多くの先輩が過去の反省の上に立って、悠々として築き上げてきた努力が、今漸く開花したわけです。友好平和は一朝一夕で成ったのではなく、各方面からの極く些細な気配りや 気配りや友情の交流の積み重ねがあったことも忘れてはなりません。

多くの平和友好運動の中で、つくば日中協会が刮目に値することができますようお祈り致します。

3. つくば日中協会発会式報告

1993年12月10日(金曜日)午後5時より、つくば市の中心地にある、つくばインフォメーションセンターにおいて、つくば日中協会の発会式と記念祝賀パーティが開催されました。当日は、約90名の方々が参加され、その内の半数の方々が その場で新しくつくば日中協会の会員登録をされ、入会されました。

発会式では、発起人の一人である稲葉つくば市助役の司会の元に、議事が進められ、発会式開催に至るまでの経緯の説明とつくば日中協会会則(案)に基づいて、会則の制定、役員を選任が行われた。

会長に電子技術総合研究所の不破正宏主任研究官、幹事長に図書館情報大学の 大庭治夫教授が推薦され、参会者の賛同を得て、新役員が了承された。引き続いて、不破新会長の挨拶があり、来賓として、本会名誉会長に就任頂いた木村操つくば市長および 種田六郎茨城県日中友好協会副会長から祝辞が述べられた。さらに、駐日中国大使館の張慧春参事官の記念講演が行われた。発会式終了後は、参会者一同、記念集合写真を撮影してから、隣室に会場を移して、発会式記念祝賀パーティが開催された。

4. 日中友好だより

つくば日中協会の結成準備の際には、土浦市日中友好協会会長・三田部宗夫氏より不破会長宛に、茨城県日中友好協会を始めとする茨城県内の日中友好団体のご紹介を受けると共に、県内の日中友好団体が協力して、1992年に、日中国交正常化20周年記念事業として出版した「茨城県日中友好の歩み」という貴重な記録文書をお送り頂きました。また、茨城県日中友好協会理事長・和知忠雄氏からも激励を受けました。

本年1月より、茨城県日中友好協会より不破会長宛に、日本中国友好協会発行の新聞、「日本と中国」が寄贈されて来ています。

昨年11月2日、茨城県日中友好協会(川津子之吉会長)、茨城県日中協会(森秀男代表世話人)、茨城県日中懇話会(会長・橋本 昌知事)の県内3団体により、県内での草の根交流の活発化と組織の一本化に向けて、茨城県日中友好団体協議会(会長・橋本知事)が設立されました。これを祝う設立記念式が、同11月25日に水戸市内で開催され、式に参列された徐敦信駐日中国大使より友好姉妹都市の実現などへの期待が表明されました。

5. つくば日中協会活動記録及び今後の予定

本会の会員であり、台湾および大陸出身の筑波大学の中国人留学生会の顧問をされている伊藤朗筑波大学教授のご紹介により、昨年の暮れ、それぞれの会の代表の方から忘年会への招待状を頂いて、不破会長が、12月23日、27日、それぞれの忘年会に参列した。

今後は、会員有志への役員の協力依頼、具体的な活動計画づくり、会員への会員名簿の配布、年4回の会報の発行と会員への送付などのために、基礎体制固めが必要です。皆様のご協力をお願いします。

6. 会員の声・会員消息など

本会会員には、各方面で、日中相互理解と相互協力に取り組んでおられる方が多いと思われます。皆様のご経験やご意見を 投稿頂き、また、会員各位の身近な情報を交換し合えると良いと思います。次号以降、皆様からの情報提供を歓迎いたします。

7. 編集後記

昨年12月10日の発会式の後、数回にわたって、世話人が合い集まり、発会式の整理、今後の活動の仕方などについて相談してきましたが、当面、活動可能な事からスタートすることとし、ここに、つくば日中協会の会報の創刊号と会員名簿をお送りします。会員の皆様が、お互いに連絡を取り合って、本会の活動を盛り上げて下さるよう、お願い致します。

この会報と会員名簿が日中交流の推進のためのネットワークづくりに役立つ事を期待しながら、皆様からの積極的なアクセスをお待ちします。